

# 平成 30 年度 事業報告



## 千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



千葉科学大学は、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探求を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」

を大学の目標としています。

本学は「薬学部」、「危機管理学部」、「看護学部」の3学部のほか、大学院も「薬学研究科」、「危機管理学研究科」に加え、今年度から「看護学研究科」を開設し、3研究科体制となり、大学の目標達成に向けて教育体制の充実を進めております。また、本学は昨年度に日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」との認定を受けました。引き続き、全学的な自己点検評価を通して実効性のある内部質保証システムの確立を目指していきます。

本学は、2016年に「10年後における千葉科学大学のあるべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026（中期目標を含む）」を設定しました。このビジョンは【I】教育改革、【II】研究推進、【III】学外連携・地域貢献、【IV】総合的的学生支援、【V】大学運営と内部質保証の5項目より構成されており、このビジョンの実現に向けて中期計画を策定し、昨年度より中期計画に基づいた事業計画を推し進めています。2年目となる今年度の事業方針と重点事項を以下のように設定しました。

**I. 教育改革** 受動的な学習態度から自律的な態度へのスムーズな移行を可能とする「初年次教育」に関わる担当教員と学習支援センターが連携して組織的展開を進め、学修行動の改善に取り組めます。昨年より始めた「リメディアル教育」のより効果的なプログラムの策定、「アセスメント・ポリシー」の策定に向けた教学マネジメントの基盤整備を行います。大学院教育においては、引き続き教育プログラムの改善に取り組むと

もに東京サテライトキャンパスの有効的な活用について検討します。

**II. 研究推進** 本学が重点研究対象に掲げている「好適環境水」等の新技術を応用した私立大学研究ブランディング事業に関する研究を飛躍的に発展させるよう取り組んでいきます。

**III. 学外連携・地域貢献** 学外連携プロジェクトの一つとして、社会人（動物看護師等）を対象とした履修証明プログラムを開講しました。また、「地（知）の拠点整備事業（COC）」については、事業の集大成として「銚子学」の全学必修化を踏まえ大学全体として取り組みました。「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」では、CISフォーラム等を活用して大学資源を積極的に地域に発信しました。

**IV. 総合的的学生支援** 公務員試験対策や国家試験対策をさらに充実させ、合格率を上げるだけでなく、合格者数の増加にも力を注ぎ、また、就職内定率のアップにも取り組みます。「競争力のあるキャンパスづくり」の基本計画に基づいてキャンパス内の整備に着手するとともに、昨年度より開始したキャンパス間のシャトルバスの運行、学生寮や学生食堂の運営などを通して学生生活の支援対策の整備に引き続き取り組んでいきます。

**V. 大学運営と内部質保証** 意思決定プロセスの迅速化、業務効率の向上を目指して事務組織、事務分掌等を見直し、マネジメント体制の強化に取り組みます。また、2019年度の学部・学科再編構想に向け、必要な手続きを行います。教職員の人材育成については、大学全体、学部、学科の各段階に応じたFD活動を行い、職員対象のSD活動とともに計画的な人材育成を行っていきます。また、今年度より全学部での教員の自己点検制度の導入に向けての検討を開始します。学内の自己点検評価においては、中期計画や事業計画の着実な実施や進捗状況を管理するとともにPDCAサイクルが適切に機能するよう継続して取り組みます。

千葉科学大学 学長 木曾 功

## 教育改革

### ■ 大学の教育改革に関する目標

#### 1. 初年次教育の組織的展開

- ・初年次担当教員（化学、数学、英語、国語）及び学習支援センターが連携し、初年次教育を組織的に展開し、学習指導を充実させました。
- ・修学ナビ及び学修行動アンケートを用いた学修行動改善を行いました。【1-①】

#### 2. 入学前・リメディアル教育の充実

- ・平成30年度入学前教育を計画し、実施しました。
- ・平成30年度入学前スタートアップセミナーを3月下旬から4月初旬にかけての4日間（3/29、3/31、4/2、4/3）実施しました。【1-②】

#### 3. 実効性のある教学マネジメントの推進

- ・アセスメント・ポリシー策定に向けて、審議を行う小委員会を設置し、原案を作成します。【1-③】

### ■ 大学院の教育改革に関する目標

#### 1. 大学院教育の充実

##### [ 薬学研究科 ]

- ・引き続き教育プログラムの点検を実施し、改善を検討します。
- ・社会人大学院生を確保するために、近隣企業の研究所、病院への働きかけを行いました。さらに東京サテライト教室の有効活用を今後検討していきます。

##### [ 危機管理学研究科 ]

- ・3つのポリシーの改訂とアセスメントポリシーを提示しました。
- ・大学院パンフレット及びポスターの作成を行い学内（学部生）及び学外（社会人向け）の啓発を行いました。【2-①】

#### 2. 社会人の受け入れ体制の整備

##### [ 薬学研究科 ]

- ・社会人学生、特に大学院生を確保するために東京サテライト教室の活用を今後検討します。

##### [ 危機管理学研究科 ]

- ・教育カリキュラムの見直しを行い魅力ある学びの場を提供することで社会人入学生の確保を行いました。
- ・医療系管理職養成のための大学院プログラムとして医療サービスに従事している人を対象に管理者及びリーダーとなるべき人材を育成する医療マネジメントコースを新設しました。【2-②】

## 研究推進

### ■ 研究活動の推進・充実に関する目標

#### 1. 研究活動に係る補助金（科研費等）の積極的な獲得

- ・科研費の獲得に向けた取組として学内研修会を9月13日に実施しました。

#### 2. 外部資金獲得のための環境整備

- ・大学シーズを紹介するHPをより充実させました。
- ・産業界フォーラム等へ積極的に参加し、情報収集を行いました。【1-①、②】

### ■ 本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標

#### 1. 「好適環境水」等の新技術を応用した私立大学研究ブランディング事業の推進

- ・大学発ブランド水産種の飼育比較実験及び新規飼育水に適した水質浄化細菌の同定を行いました。
- ・鮮魚・活魚の安心安全・品質向上を目指した輸送・加工技術開発に関する結果解析を実施しました。
- ・次世代型陸上養殖施設が完成し、教育普及、研究成果発表を目的とし、6月27日に開所式及び外部講師による特別講演を実施しました。【2-②】

## 学外連携・地域貢献

### ■ 積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標

- ・学外連携プロジェクトの一つとして、動物看護師を対象とした履修証明プログラム【災害時獣医療支援人材養成プログラム】を5月9日から8月30日の間で全10回開講し、受講生5名に履修証明書を交付しました。
- ・県内及び本学近隣地域を主な対象として、動物危機管理に関連する啓蒙活動の一環として、「千葉科学大学 動物危機管理教育研究センター」主催の公開講座や講演会等を開催しました。【1-①】

## ■ 地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標

1. 地（知）の拠点整備事業（COC）の実施
  - ・「銚子学」の全学（薬学部、危機管理学部、看護学部）の必修化を踏まえた大学全体の取り組みを強化しました。
  - ・「プロジェクト学習」において地域の課題の解決に向けて取り組みました。【2-①】

## ■ 「地育地就」実現のための環境整備に関する目標

1. 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施
  - ・CISフォーラムを9月29日に開催し、大学資源を地域に発信しました。【3-①】

# 総合的學生支援

## ■ 就職支援体制の強化に関する目標

1. 戦略的就職支援策の整備
  - ・就職内定率前年対比3%アップを目指しましたが、結果は0.3%アップでした。
  - ・薬局、民間企業、病院就職希望者へ専門業者のガイダンスを合わせて年間10回以上開催しました。【3-①】
2. 公務員試験対策の強化・合格数増加
  - ・公務員採用試験合格者70名を目指し、70名が合格しました。
  - ・公務員試験対策ベーシック講座受講者100名を目指しましたが、受講者は81名でした。

- ・公務員試験対策ハイグレード講座受講者50名以上を目指し、受講者は69名でした。【3-②】

## 3. 国家試験対策の充実・合格数増加

### [ 薬学部 ]

- ・前年度の国家試験対策の問題点を抽出しより効率性の高い対策を実施しました。
- ・学生の進捗状況に合わせた個別目標を設定し、それぞれの目標達成を積み重ねて合格率の向上を目指しました。
- ・6年次生を対象とした自主参加型の補習講義を開催しました。

### [ 危機管理学部 ]

- ・自発的な勉学促進のために学生国家試験対策委員の選出と国家試験補習授業を実施しました。
- ・国家試験全国平均以上の合格率を目指しました。（臨床検査技師、臨床工学技士、救急救命士）

### [ 看護学部 ]

- ・国家試験対策を1年次より計画的に実施しました。
- ・1期生の4年間の国家試験対策評価を早期に行い、2期生以降の国家試験対策に反映しました。
- ・4年次生のうち国家試験対策が遅れている学生への計画的な早期サポートを行いました。【3-③】

## ■ 学生生活の支援対策の整備に関する目標

1. 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実
  - ・健康管理センターマリナー分室の迅速対応を継続しました。
  - ・障がいのある学生の把握、健康管理支援について支援を充実させました。
  - ・喫煙者に対する禁煙支援を充実するため、受動喫煙による健康被害についての講演会を開催しました。【4-①】
2. 学生寮の完備・充実
  - ・平成30年4月に開設した女子寮の適切な運営を行いました。【4-③】
3. キャンパス整備
  - ・競争力のある大学づくりプロジェクトの一環として、「安心・安全なキャンパス」を目指し、ソーラークライムの維持管理を行いました。

- ・学生の利便性を高めるため、両キャンパス間のシャトルバス運行の維持管理を行いました。【4-⑤】

## 大学運営と内部質保証

### ■ 大学のマネジメント（運営管理）体制の充実・強化に関する目標

1. 意思決定プロセスの整備・迅速化
  - ・意思決定プロセスの迅速化を目指し、職務分掌等を勘案し裁量権の委託等を検討しました。【1-①】
2. 教学マネジメント体制の充実
  - ・学務委員会に加え、初年次教育強化を推進する担当者部会を設置し、進捗を点検、改善を行いました。【1-②】
3. 大学事務業務の効率化
  - ・業務の効率化を目指し、事務組織・事務分掌の見直しを行いました。
  - ・部署間のスムーズな連携体制を構築しました。【1-③】
4. 危機管理体制の整備・運用
  - ・飲料水、非常用食料等の防災用品を年次計画に沿って購入しました。
  - ・秋学期、10月5日に地震・津波避難訓練、11月12日に総合防災訓練を実施し、学生及び教職員に緊急時の対応について周知をしました。【1-④】
5. 適正な学部学科構想の検討
  - ・文系色が強い学科であることが保護者及び受験生に明確に伝わるよう危機管理学部危機管理システム学科を危機管理学科に、また、医療系の学科であることを明確にするため、医療危機管理学科を保健医療学科にそれぞれ名称変更を行いました。
  - ・危機管理学部危機管理学科の学生納付金を120万円から100万円に見直しを行いました。
  - ・危機管理学部危機管理学科（120名）及び動物危機管理学科（60名）の入学定員を変更しました。
  - ・学部構想を見直し、薬学部生命薬科学科及び危機管理学部環境危機管理学科の募集停止を行いました。【1-⑤】

### ■ 戦略的広報対策に関する目標

1. 学生募集のための効果的な広報対策
  - ・資料請求者数の増加を目的に、学問系統別に広報媒体を選別しました。
  - ・より効果的な高校訪問を展開するため、各訪問時のテーマを制定するとともに必要な訪問ツール（チラシ・ポスター）を作成しました。
  - ・大学の最新情報を発信するため、ネット広報・大学のSNS等を拡充しました。【2-①】
2. 一般広報対策
  - ・広報委員会を通して、学科との連携を強化しました。
  - ・マスコミ、地元自治体などとの連携を図り、各種イベント及びトピック的情報を適宜発信し、大学のイメージ向上を図りました。【2-②】
3. 高大連携事業の推進・拡充
  - ・高大連携推進教育研究交流会を9月1日に開催し、高校側から高大連携推進事業の推進に関する意見を集めました。
  - ・高大連携に繋がる取り組みとして、教育提携校での出張講義を継続的に実施しました。【2-③】

### ■ 入学者の確保・退学者等の減少に関する目標

1. 優秀な学生の確保・入学者数の増加
  - ・入学者選抜方法（入試回数、日程、出題科目、募集単位等）を見直し、入学者数の増加に努めました。
  - ・入試特待生制度に関する広報活動（紙媒体、ウェブ）を適宜実施し、優秀な学生の確保に努めました。
  - ・ホームページを介して、ブランド力向上に繋がる情報を適宜発信していきました。【3-①】
2. 退学者減少のための対応整備
  - ・基礎教育強化を推進する担当者部会を設置し、教学IR部門の体制（組織、具体策）を構築しました。【3-②】

### ■ 教職員の人材育成・確保に関する目標

1. 教員対象の組織的FD活動による人材育成
  - ・FD部会を中心に、大学全体、学部・学科等のそれぞれの段階で求められるFD活動を見直し、各段階

に応じた効果的なFD活動を企画立案して、外部講師によるFD講演会を実施しました。

- ・FD部会において、FD活動内容の効果検証や参加できなかった教員、新任教員などに対するフォローアップのための対応策として moodle を利用して閲覧して参加できるようにしました。【4-①】

## 2. 教職員の自己点検制度の確立・運用

### [ 薬学部 ]

- ・平成29年度に実施した教員の自己点検制度の問題点を抽出しました。
- ・平成29年度に実施した教員の自己点検制度の中の自己点検項目及びポイント制について、問題点を抽出しました。

### [ 危機管理学部 ]

- ・教員評価制度導入のための検討委員会を設置し評価目標に合った評価項目、評価方法等を検討し次年度に向けて策定しました。

### [ 看護学部 ]

- ・初年度より行っている自己評価点検を継続して実施しました。【4-③】

## 3. 職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成

- ・SD部会において、SD研修会・SD講演会等を計画し、SD活動を実施しました。【4-④】

## ■内部質保証システムの構築・運用に関する目標

### 1. 実効性のある自己点検評価体制の整備・運用

- ・中期目標・計画の着実な実施、計画の進捗状況を把握し、PDCAサイクルが適切に機能するよう継続して学内の自己点検・評価を行いました。

【5-①】

## 主な行事

4月4日	新入生オリエンテーション
4月5日 ～6日	新入生一泊研修
4月7日	入学宣誓式
4月8日	在校生春学期オリエンテーション
6月10日	第2回オープンキャンパス
7月29日	第3回オープンキャンパス
7月30日 ～8月10日	春学期定期試験
8月4日 ～8月8日	教員免許状更新講習会
8月25日	第4回オープンキャンパス
9月8日	教育進路懇談会（地方）
9月12日	就職懇談会（神栖会場）
9月15日	教育進路懇談会（本学） 第1回大学進学相談会
9月18日	在校生秋学期オリエンテーション
9月29日	C I Sフォーラム
9月30日	第5回オープンキャンパス
10月9日	就職懇談会（東京会場）
10月27日 ～10月28日	学内業界研究会
11月10日 ～11月11日	青澄祭（大学祭）
12月8日	第1回合格者見学会 第2回大学進学相談会
1月21日 ～2月2日	秋学期定期試験
2月17日	第2回合格者見学会 第3回大学進学相談会
3月7日	進級・卒業判定会議
3月25日	学位記授与式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成30年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数				
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人		
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	0	0	0	12	1	1	0	
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	1	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	1	0	0	20	2	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	1	9	4	0	3	
	危機管理学研究科（修士）	5	3	0	2	10	7	0	2	
	看護学研究科（修士）	5	4	0	2	5	4	0	2	
	大学院 計	31	9	0	5	71	19	1	7	
学 部	薬学科（6年制）	120	76	28	1	720	606	82	1	
	生命薬科学科	35	5	1	0	155	61	1	0	
	計	155	81	29	1	875	667	83	1	
	危機 管 理 学 部	危機管理システム学科	100	50	5	0	400	304	27	0
		環境危機管理学科	40	15	0	0	160	63	1	0
		医療危機管理学科	80	51	0	0	320	270	1	1
		航空技術危機管理学科	40	13	4	0	160	44	8	0
		動物危機管理学科	40	17	0	0	160	91	0	0
	計	300	146	9	0	1,200	772	37	1	
	学 部 護	看護学科	80	59	0	0	320	309	0	0
		計	80	59	0	0	320	309	0	0
	学部 計		535	286	38	1	2,395	1,748	120	2
<b>総合計</b>		<b>566</b>	<b>295</b>	<b>38</b>	<b>6</b>	<b>2,466</b>	<b>1,767</b>	<b>121</b>	<b>9</b>	
留学生別科		40	6	6	0	40	16	16	0	

※社会人は社会人入試にて入学した学生数（単位：人）

### ■卒業生数等一覧

(平成30年度)

区分	修了者・卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	4	3	2	67%	0	4	1	0
学部	404	351	337	96%	12	82	72	27

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成31年4月1日現在）

(単位：人)

主な就職先	ウエルシアホールディングス、クオール、国立病院機構、アストラゼネカ、トーアエイヨ、千葉県職員（病院局）、戸田中央医科グループ、東京消防庁、千葉市消防局、札幌市消防局、日立消防本部、警視庁、千葉県警察本部、神奈川県警察本部、栃木県警察本部、自衛隊、千葉県がんセンター、新日鐵住金、常陽銀行、アビスト、前川製作所他
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ■教職員数

(平成30年5月1日現在)

学長	副学長	教授 <sup>※</sup>	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員 57
1	3	67	27	24	10	2	1	135	

※大学院教授1名含む

※学長・副学長除く

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	30年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入		2,750,600	3,057,147
	経常費等補助金		361,198	338,907
	その他収入		152,286	140,750
	計		3,264,084	3,536,803
	教育活動収支差額		△854,577	△572,236
教育活動 支出	人件費		2,388,634	2,375,770
	教育研究経費		1,279,614	1,292,506
	管理経費		445,432	437,446
	その他支出		4,981	3,316
計		4,118,661	4,109,039	
教育活動外 収入	受取利息等		5	4
教育活動外 支出	借入金利息等		3,563	4,123
教育活動外収支差額			△3,559	△4,119
経常収支差額			△858,136	△576,355
特別 収入	資産売却差額等		2,730	40,550
	資産処分差額等		2,801	46
特別収支差額			△71	40,504
基本金組入前収支差額			△858,207	△535,851
基本金組入額合計			△121,575	△326,011
当年度収支差額			△979,782	△861,861

### ■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
入退室管理システム更新工事	15,026
マリナキャンパス厚生棟放送設備新設工事	756
入退室管理システムカード印刷機	1,630
自動貸出返却装置(図書館)	2,474
入退室管理システムソフトウェア	843

千葉科学大学  
中期計画の進捗状況一覧

教育改革	H29	H30	R1	R2	R3	中期目標
<b>1. 大学の教育改革に関する目標</b>						
- ① I-1-1 初年次教育の組織的展開	●	●	●	●	●	学士課程教育の一環として、適切な初年次教育を組織的に展開することにより、高校教育から大学教育への円滑な移行、すなわち、受動的な学習態度から能動的で自律的な学習態度への転換がスムーズに行われており、カリキュラムポリシーに基づく学科基礎科目や専門科目の修得においても効果的に機能している。
- ② I-1-2 入学前・リメディアル教育の充実 スタートアップセミナー実施	●	●	●	●	●	種々の入学選抜制度で入学してくる学生の学習レベルの多様性を鑑みて、効果的な入学前教育を実践するとともに、必要に応じてリメディアル教育プログラムを展開することにより一定水準の学習レベルが担保されている。
- ③ I-1-3 実効性のある教学マネジメントの推進	●	●	●	●	●	各学部・学科で明確に示されたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをアセスメントポリシーに基づいて定期的に見直ししながら、多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実、教育の質保証を目指した教学マネジメントが適切に機能している。
- ④ キャリア教育対策	●	●	●	●	●	本学独自の体系的なキャリア教育を確立し、学生に対して入学時から始めるキャリア教育を通して、自分の将来の進路に対する明確な目的や意志を持ちながら様々な課題に柔軟かつ遅く対応し、卒後、社会人として自立している。
- ⑤ 愛校心(帰属意識)の高揚教育・育成	●	●	●	●	●	卒業した先輩達の活躍や業績を見聞したり、銚子や近隣地域の歴史等に関わる教育を通して、本学に対する愛校心やプライドが育まれ、強固な人的同窓ネットワークが構築されている。
<b>2. 大学院の教育改革に関する目標</b>						
- ① I-2-1 大学院教育の充実	●	●	●	●	●	体系化された大学院教育プログラムに基づいて教育がなされ、大学院修士のキャリアパスも明確に示されており、研究志向の高い学生が毎年一定数、大学院へ進学している。
- ② I-2-2 社会人の受け入れ体制の整備	●	●	●	●	●	社会人を対象とした大学院教育プログラムの充実や様々な支援策など、社会人の受け入れ体制を整備することにより社会人に対する門戸が広がり、社会人学生が一定数在籍している。また、修士生はその成果を社会へ還元するとともに活躍が期待されている。
<b>研究推進</b>						
<b>1. 研究活動の推進・充実に関する目標</b>						
- ① II-1-1 研究活動に係る補助金(科研費等)の積極的な獲得	●	●	●	●	●	研究活動に係る補助金(科研費等)を積極的に獲得し、多くの教員が研究活動を推進しており、国内外の学会等での研究成果発表だけでなく、学術雑誌への論文投稿も活発に行われている。
- ② II-1-2 外部資金獲得のための環境整備	●	●	●	●	●	外部資金獲得のためのスタートアップとなる研究支援制度の整備や申請書のレビューなどのサポート体制などの環境が整備されており、外部資金の獲得につながっている。
<b>2. 本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標</b>						
- ① II-2-1 「好適環境水」等の新技術を応用した私立大学ブランディング事業の推進	●	●	●	●	●	「好適環境水」等の新技術を応用したブランディング事業などの成果により、本学独自のいくつかの研究分野において、国内外から本学が重要な研究拠点として認識されている。
<b>学外連携・地域貢献</b>						
<b>1. 積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標</b>						
- ① 動物危機管理教育センター主催の公開講座及び講演会等の開催	●	●	●	●	●	銚子市を始めとする本学近隣地域の行政・産業界と連携し、地域の経済・社会・雇用・文化の発展等に寄与する研究が展開・推進されており、大学が地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核となっている。
<b>2. 地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標</b>						
- ① III-2-1 地(知)の拠点整備事業(COC)の実施	●	●	●	●	●	地(知)の拠点整備事業(COC)を通して『防災教育と郷土教育を積み上げ、人に優しく安心して住める地域創り』が進んでおり、大学が地域活性の中核を担う存在として、地場産業の振興や人材の育成に寄与し、地域の諸問題解決のための一助となっている。
<b>3. 「地育地就」実現のための環境整備に関する目標</b>						
- ① III-3-1 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の実施	●	●	●	●	●	千葉大学を中心とする『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)』に積極的に協力することによって地域に魅力ある就職先が創設され、県内の人口減少・若年層流出が課題となっている地域において、創生の核となる「ひと」の地域への定着がなされている。

総合的學生支援		H29	H30	R1	R2	R3	中期目標
<b>1. 学習支援体制の充実に関する目標</b>							
- ① 学生ポートフォリオシステムの効果的活用による学習支援策の充実							学生の学修履歴を入学時からすべて把握することができる学生ポートフォリオシステムを活用して学修履歴を可視化することにより、アセスメントポリシーに基づき、学生一人ひとりに対する効果的できめ細かい学習支援体制が確立され機能している。
<b>2. 経済支援制度の整備・充実に関する目標</b>							
- ① 効果的な経済的支援策(奨学金制度等)の整備・充実							奨学金制度等の経済的な支援策が整備され、支援が必要な学生に効果的に適用され、経済的な理由による退学や休学者が減少するとともに、勉強意欲のある学生に対して、アルバイト等の負担軽減により学業に集中できる環境が提供されている。
<b>3. 就職支援体制の強化に関する目標</b>							
- ① IV-3-1 戦略的就職支援策の整備	●	→	●	→	●	→	学生の就業力を高められる戦略的な就職支援対策が整備され、全ての学科において就職希望者に対して高い就職率を維持することができている。また、学生のニーズや就職先のニーズ等を考慮したマッチングを行うことで低い離職率を保持している。
- ② IV-3-2 公務員試験対策の強化・合格数増加	●	→	●	→	●	→	公務員試験対策の強化や学生に対する動機づけ対策などを充実させ、毎年一定数以上の合格者を出し、合格率は全国平均を上回る好成績を維持している。
- ③ IV-3-3 国家試験対策の充実・合格数増加	●	→	●	→	●	→	薬剤師や看護師等の国家試験対策を充実させ、毎年一定数以上の合格者数を出し、合格率は全国平均および近隣大学の合格率を上回る好成績を維持している。
<b>4. 学生生活の支援対策の整備に関する目標</b>							
- ① IV-4-1 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実	●	→	●	→	●	→	健康維持・管理に関する支援策が整備、充実しており、学生が健全な心身を保って学業に集中できている。また、体調不良やその兆候がみられた場合でも教職員の協働により迅速に対応され、医療機関等の連携も速やかに行われる体制が整っている。
- ② 課外活動活性化のための積極的な支援							クラブ活動や大学祭などの課外活動において、教職員協働の下、必要に応じて様々な支援を行うことにより学生が自律的、積極的に活動できるようになり、活気あふれる課外活動が行われている。
- ③ IV-4-3 学生寮の完備・充実	●	→	●	→	●	→	新入学生のうち希望者には学生寮が準備されており、安心して大学生生活をスタートさせることができるとともに健康的な学生生活を送ることができる。
- ④ 留学生支援の強化							世界各地から来ている留学生に対する支援体制が整備されており、安心・安全で充実した学生生活を送っており、留年や退学者を最小限に止めている。
- ⑤ IV-4-5 キャンパス整備	●	→	●	→	●	→	「安心・安全」、「癒し・憩い」、「活気」をキーワードとしたコンセプトに基づいたキャンパス整備が進み、喫食環境・コミュニケーションスペース等の整備など、機能的で競争力のあるキャンパスになっており、学生に対して満足度の高い教育環境が提供されている。
<b>大学運営と内部質保証</b>		H29	H30	R1	R2	R3	中期目標
<b>1. 大学のマネジメント(運営管理)体制の充実・強化に関する目標</b>							
- ① 意思決定プロセスの整備・迅速化	●	→	●	→	●	→	適切な職務分掌に基づいてそれぞれの権限を明確にするとともに適切な権限の委譲を図ることにより、意思決定のプロセスが整備され、重要な決定事項も遅滞なく迅速かつ適正に行われている。
- ② 教学マネジメント体制の充実	●	→	●	→	●	→	教育の質保証等を目指す教学マネジメントが適正に機能するための体制が確立されている。また、個別に生じた課題に対しては、必要に応じて各種ワーキンググループ等を結成して迅速に対応することができる体制になっている。
- ③ 大学事務業務の効率化	●	→	●	→	●	→	計画的なSD(スタッフ デベロップメント)が実施され、各職員の事務処理能力・企画立案力が向上するとともに、業務の見直し・改善が進み、業務効率がアップしている。

大学運営と内部質保証	H29	H30	R1	R2	R3	中期目標
- ④ V-1-4 危機管理体制の整備・運用	●	→	→	→	→	学内の危機管理体制が構築され、防災対策をはじめ不測の事態への対策が整備され、教職員・学生にとって安全・安心な環境が提供されている。
- ⑤ V-1-5 適正な学部学科構想の検討	●	→	→	→	→	外部評価機関等の活用により入手した、大学・学部・学科の社会的評価、社会のニーズ等に関する客観的な情報に基づいた適正な学部学科構想についての検討が行われている。
<b>2. 戦略的広報対策に関する目標</b>						
- ① V-2-1 学生募集のための効果的な広報対策	●	→	→	→	→	大学の認知度や総合的評価の向上などの外部環境の改善や限られた資源を有効的に活用した学生募集のための種々の広報活動により、志願者数が定員の2.5倍を超える状況が継続している。
- ② V-2-2 一般広報対策	●	→	→	→	→	学内の情報を学外へタイムリーかつ効果的に発信する(適切な広報)とともに積極的な情報公開を進めて大学の社会的責任や透明性の確保に努めることにより、本学のブランドイメージの確立や認知度・社会的評価の向上につながっている。
- ③ V-2-3 高大連携事業の推進・拡充	●	→	→	→	→	本学と教育提携を結んでいる高等学校で構成されている「千葉科学大学高大連携推進協議会」が中心となって、継続的に開催されている「高大連携教育研究会」を通じて、高校および大学の教員、生徒、学生の間で活発に意見・情報交換が行われており、高大連携の成果が共有されている。
<b>3. 入学者の確保・退学者の等の減少に関する目標</b>						
- ① V-3-1 優秀な学生の確保・入学者数の増加	●	→	→	→	→	戦略的な広報対策や成績優秀者に対するインセンティブ制度、入試改革への対応などの成果が実を結びつつあり、国内外の志願者の増加や一般入試入学人数が増加し、入学定員を満たす状況が継続しているだけでなく、選抜機能が働いて優秀な学生が一定の割合で確保されている。
- ② V-3-2 退学者減少のための対応整備	●	→	→	→	→	総合的な学生支援策が奏功し、やむを得ない事情による退学者等を除いて、退学者、除籍者、休学者などが減少している。
<b>4. 教職員の人材育成・確保に関する目標</b>						
- ① V-4-1 教員対象の組織的FD活動による人材育成	●	→	→	→	→	授業公開やアンケート結果の反映など、従来の教員対象のFD(ファカルティ デベロップメント)活動だけでなく、より有効で組織的なFD活動を通して、教員各自が自律的かつ積極的に教育の質および教育力を高める努力をしている。
- ② V-4-2 専門性、年齢、性別等の構成を考慮した計画的な人材確保	●	→	→	→	→	戦略的な学科構想と連動した教員の採用計画が立案されており、かつ学部・学科において専門性・年齢・性別等の構成を考慮した教員採用が進み、全体的に適正な構成が保たれている。
- ③ V-4-3 教職員の自己点検制度の確立・運用	●	→	→	→	→	教職員を対象とした自己点検制度が導入され、各自に対して適切な目標が設定されることにより達成度や課題が明確になるとともに、それぞれの人材育成プログラムに反映されている。
- ④ V-4-4 職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成	●	→	→	→	→	職員対象の体系的なSD活動が適正に実施されており、企画力、提案力、情報収集力など、大学職員として必要な専門性を有する職員が増え、計画的な人材育成が進んでいる。
<b>5. 内部質保証システムの構築・運用に関する目標</b>						
- ① V-5-1 実効性のある自己点検評価体制の整備・運用	●	→	→	→	→	実効性のある自己点検評価体制が整備され、ビジョンをはじめ、ビジョンを達成させるための中期目標、計画の進捗状況が定期的に点検評価され、PDCAサイクルが適切に機能している。